

京都大学における民間研究助成の獲得に向けた取り組み

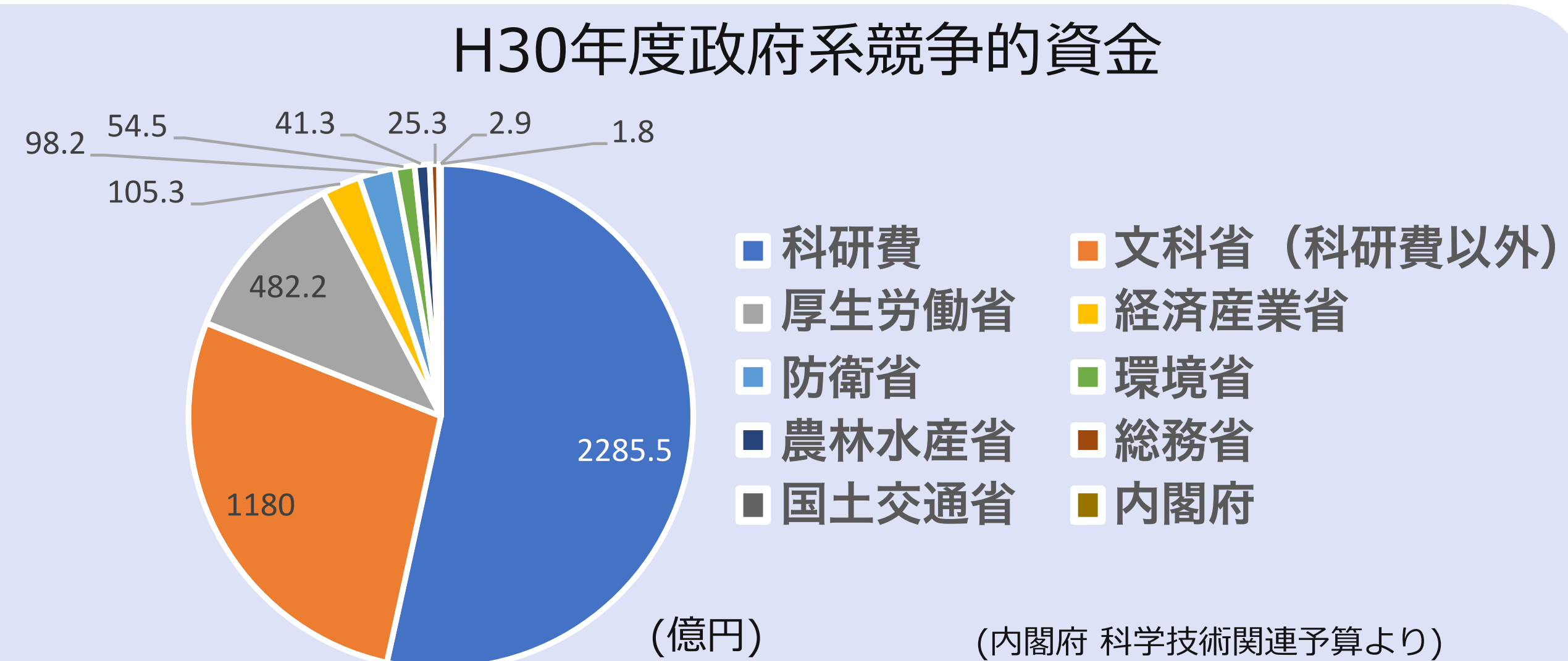
○菅井佳宣、大西将徳、田上款、加賀田博司（京都大学 学術研究支援室（KURA））

◆ 背景・目的

運営費交付金が減額される中で競争的資金獲得の重要性は高まっている。代表的な競争的資金である科研費の年間予算規模が2300億円、その他省庁の競争的資金が2000億円とされる中で、日本国内の民間助成団体の助成規模は1000億円以上と集計されている¹。また助成団体数も4000以上あり¹、それぞれの社会的目的に沿って多様なテーマの研究助成を行っている。そのため、民間助成団体の助成事業は量、質共に日本の研究を支える重要な地位を占めている。

民間研究助成を獲得することで、財政的により安定した研究環境を実現できることに加え、若手研究者にとってはファンド獲得の貴重な経験になると共に、社会に求められる研究を意識する機会となる。そのため京都大学では研究力強化を目的とした民間研究助成の獲得支援を行っており、ここではその取り組みの一部を紹介する。

¹助成財団センター調べ



	財団数	%	累計	助成額(億円)	%	累計
～0.25億円未満	541	57%	57%	66	7%	7%
0.25～0.50億円	156	16%	73%	56	6%	12%
0.50～1.00億円	114	12%	85%	79	8%	20%
1.00～3.00億円	99	10%	95%	163	16%	36%
3.00～5.00億円	21	2%	98%	82	8%	44%
5.00億円～	23	2%	100%	560	56%	100%
合計	954	100%		1,006	100%	

年間助成等事業模別財団数および助成額
(助成財団センター、「日本の助成財団の現状」より)

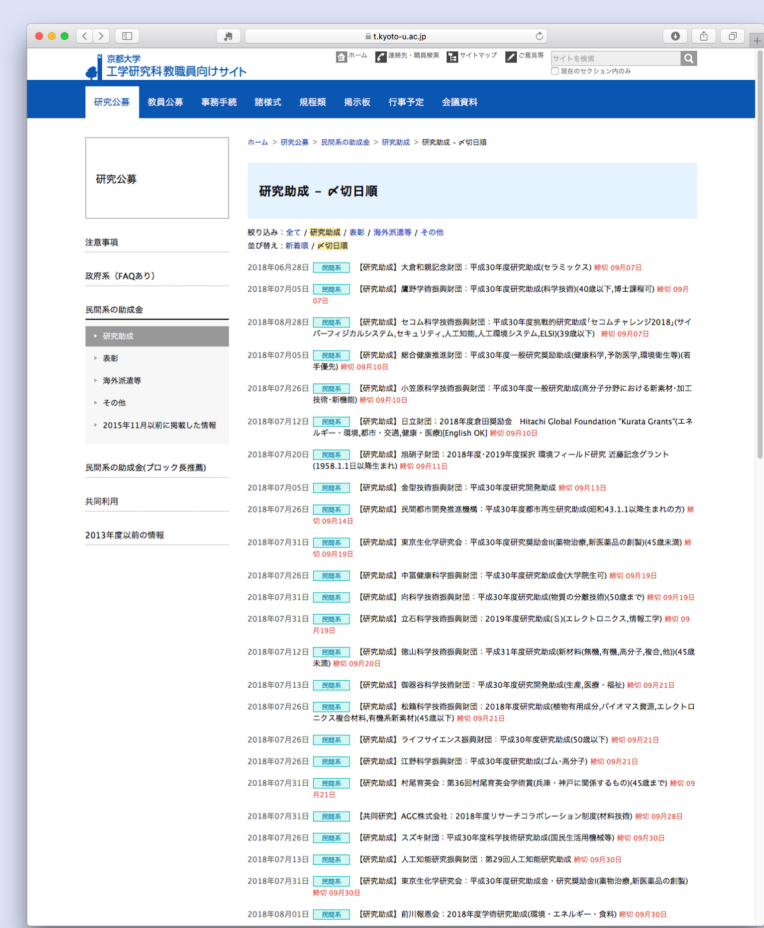
◆ 京都大学における民間助成事業に関する情報提供

「鎗」
KURAが整備する助成金情報サイト



- 【特徴】
- ・複数の部課からの公募情報の登録（学内ファンド含む）
 - ・一覧表示および複数条件による検索機能
 - ・電子メールによる公募情報の配信設定
 - ・約350件/年（民間助成情報）

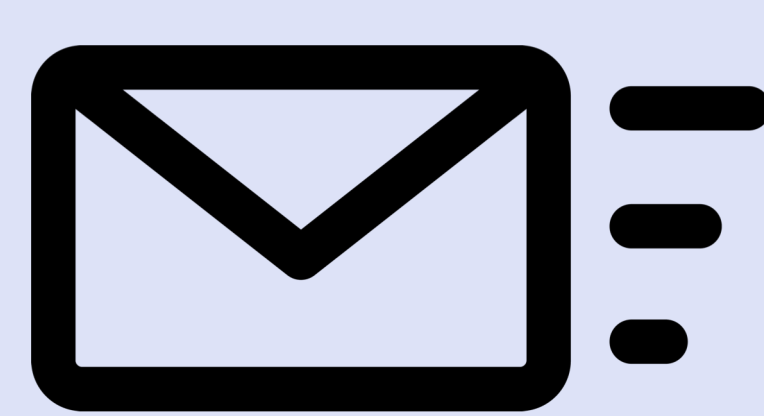
事務の掲示板
各部局事務がHPに掲示する助成金情報



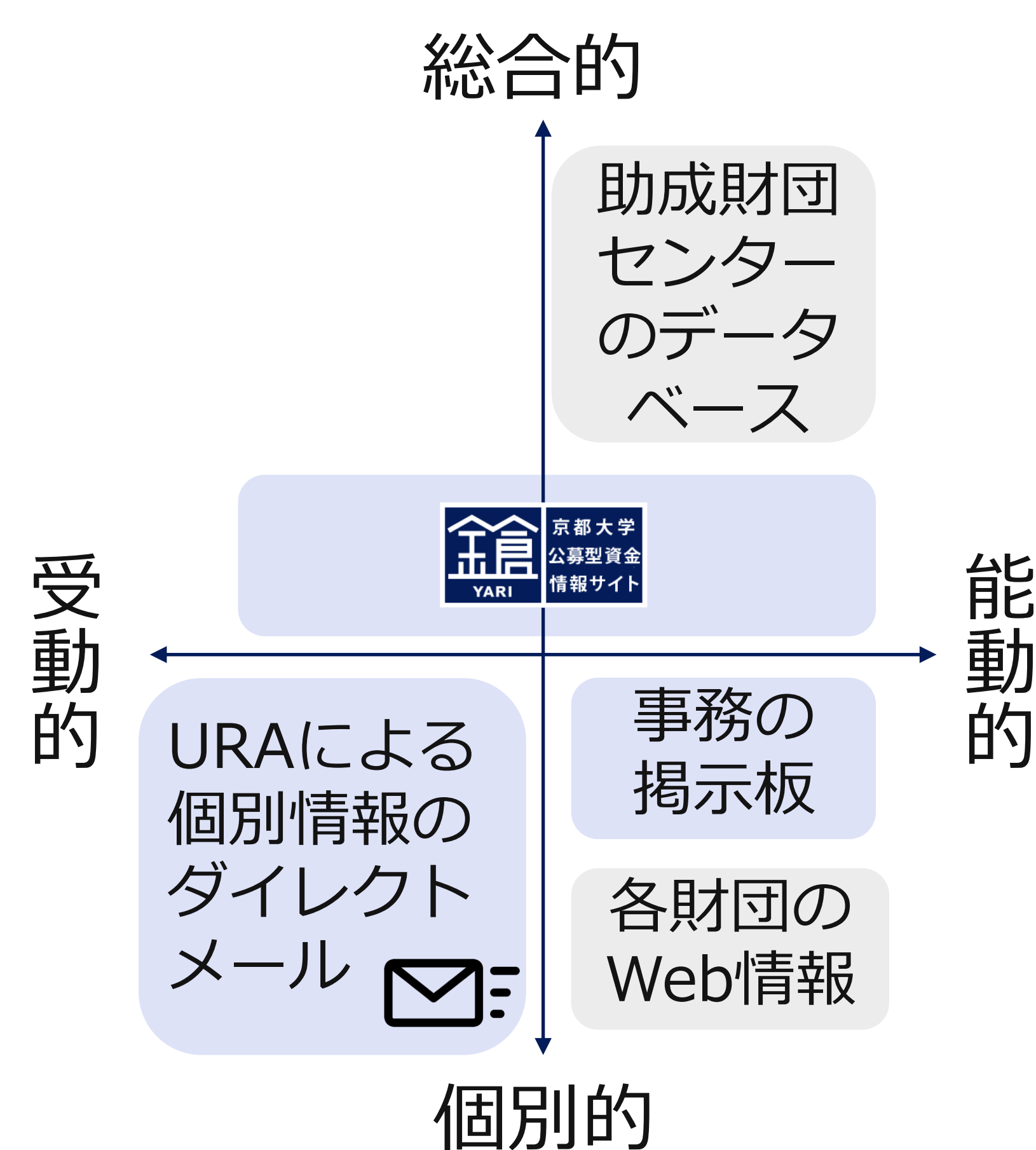
(工学研究科、教職員向けサイト)

- 【特徴】
- ・過去、掲示部局から申請前例がある等、研究領域に即した情報が掲載
 - ・学内締切等、事務手続きに必要な情報を過不足無く提供

URAによる
ダイレクトメール
URAが助成財団情報を精査し、募集テーマにマッチする研究者に直接メール送信



- 【特徴】
- ・KURAが保有する研究者データベースや、把握している研究シーズ等からマッチング・研究者とのコンタクトポイント
 - ・約130件/年、約350名（KURA 工学研究科担当T）



情報提供方法の特徴
情報の網羅性（総合的、個別的）と、入手方法（能動的、受動的）から分類。

◆ 民間助成金の獲得に向けたKURA 工学研究科担当チームの取り組み

外部研究資金獲得に関する様々な情報、ノウハウ等を紹介する「外部資金獲得シリーズ」を毎月開催している。H30年6月には民間助成を取り上げ、民間助成金の特徴や申請書を書く上での注意点等の説明を行った（22名参加）。

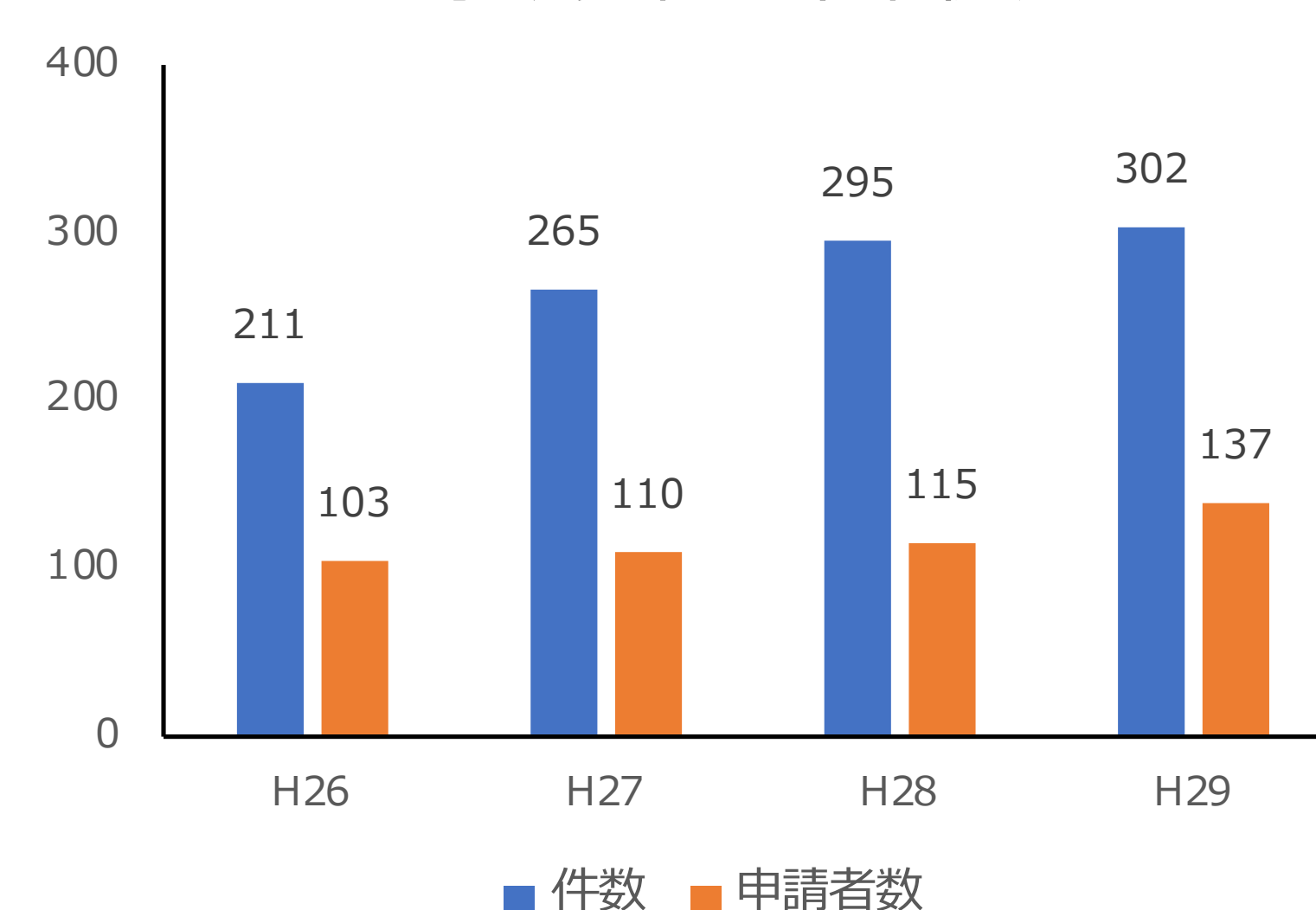


- 【外部資金獲得シリーズ】
- ・概論（若手向け）
 - ・民間助成
 - ・産学連携
 - ・外国人向け（ネットワーキング、科研費セミナー）
 - ・科研費説明会
 - ・医工連携（9月末予定）
 - ・クラウドファンディング（10月以降予定）



◆ 効果と今後の課題

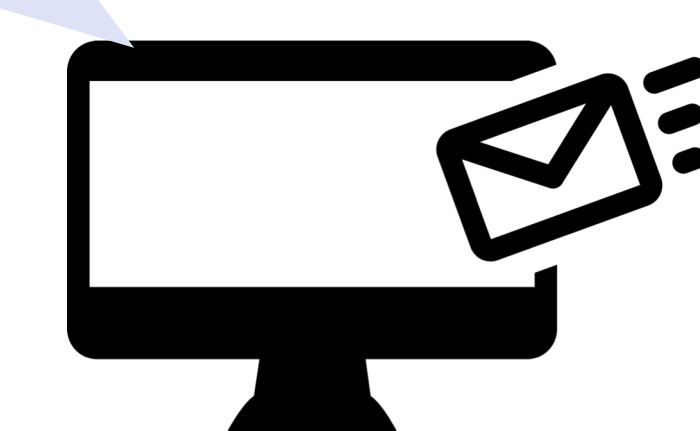
工学研究科の申請状況



工学研究科では申請件数、申請者数共に増加

公募情報を見落としていました！

この公募は把握していませんでした。



ダイレクトメールへの返事は、さらなる取組への余地があることを示唆

- ・セミナー等を通じた民間助成への意識の向上
- ・研究者が目的の情報を取得しやすい環境整備
- ・助成金獲得事例を記録、分析し、ノウハウを普及